

～南海トラフ巨大地震から自分と家族の命を守る～
住宅の地震対策の「今」を知るイベント「住まいの耐震博覧会」を開催！
 8月30日（土）・31日（日）インテックス大阪にて **入場無料**

◆ **耐震診断・耐震改修、地震に強い家づくりを知るイベント** ◆

8月30日（土）、31日（日）の2日間、住宅用の木材・建材・設備機器のメーカーや工務店などが一堂に介し、地震に強い家づくりに関する情報提供や無料相談をはじめ、住宅の省エネルギー・創エネルギー・蓄エネルギーといった最新技術などをご紹介します「住まいの耐震博覧会」を、インテックス大阪で開催いたします。



◆ **南海トラフ巨大地震 大阪府域の全倒壊棟数は17万9,000棟** ◆

大阪府「南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会」の2013年10月の発表によると、南海トラフ巨大地震による大阪府域の被害について、最悪の場合、死者数は13万3,800人、全壊棟数は17万9,000棟にのぼるとしています。大阪府では、阪神・淡路大震災の犠牲者の約9割が住宅や建築物の倒壊などに起因していたことを鑑み、2006年より「大阪府住宅・建築物耐震10カ年戦略プラン」を展開しており、2006年時点で94万戸（全体の27%）とされる「耐震性が不十分な住宅」を、2015年には35万戸（同10%）に減らす目標を掲げています。さらに同プランは、2013年5月の耐震改修促進法の一部改正を受けて11月に改訂され、優先的に耐震化に取り組む交通路の指定とその沿道建築物の耐震化の促進などが盛り込まれました。京都府においても、2007年に「京都府建築物耐震改修促進計画」を策定し、2003年時点で全体の26%を占める「耐震性が不十分な住宅」を2015年には10%にまで減らす目標を打ち出しています。

政府は「新成長戦略」において住宅の耐震化率を2020年までに95%とする目標を掲げ、国土強靱化基本法においても「建築物の倒壊対策の推進」は最悪の事態を回避するための重点化プログラムの筆頭に掲げられるなど、住宅の耐震化の促進が急務の状況となっています。

来年1月17日には阪神・淡路大震災から20年を迎えます。あの悲劇を二度と繰り返さないためにも、「住まいの耐震博覧会」では、主に旧耐震基準で建てられた建物と新耐震基準で建てられた建物について、その耐震性能の違いについて分かりやすく解説しながら、住まいの地震対策の重要性を訴えています。

① **耐震診断や定期点検の最新機材を実演**

ご自宅の耐震性能がその場で簡単に判断できるよう、「旧耐震基準（～1981年）」「新耐震基準（1981～2000年）」「現行の新耐震基準（2000年～）」と建築年ごとの耐震性能の違いなどを、動く耐震模型を使って分かりやすく説明します。

耐震改修などの技術研修や技術者認定を工務店様に対して行うNPO法人住まいの構造改革推進協会が中心となり、耐震性に関するご相談に建築士の資格を持つ専門家が無償でお応えします。また、大阪市都市整備局企画部住宅政策課および京都市都市計画局建築指導部建築安全推進課が出展し、耐震化に関する各種支援制度のご紹介や個別のご相談に応じます。

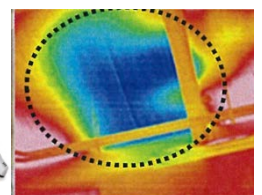
このほか、耐震診断や定期点検に活用する最新機材の実演を行います。遠隔操作で床下や天井裏の点検が可能な「ジオス・アイ・ロボット」、壁体内の温度差を測定して断熱材の有無や雨漏りなどの異常を映し出す「ハンディ・サーモカメラ」、外壁や屋根の塗料劣化やひび割れなどを正確に診断する「ワイヤレス・マイクロスコープ」を実演します。



建築士による無償での相談



床下点検用
ロボット



ハンディ・サーモカメラ
による屋根裏の雨漏り
映像

② 2つの実物大オープン型モデル「昭和の家・今の家」を初展示

1980年以前築の旧耐震基準住宅を「昭和の家」、2014年以降の改正省エネ基準に適合した住宅を「今の家」として、2つの実物大オープン型モデルを展示します。普段あまり見ることでできない住宅の内部を見えるようにして、「耐震」「断熱」「省エネ」「バリアフリー」などの性能において、それぞれの住宅の違いをご紹介します。



「昭和の家」(1980年以前築)



「今の家」(2014年以降築)

③ 構造躯体と内装に木材を使用した実物大「老人ホームモデル」を初展示

国をあげて国産材の利用促進に向けた動きが加速するなか、ナイスグループの徳島製材工場をはじめ、トップランナーの国産材メーカーによる構造用製材品を用いたオール国産材の実物大躯体を展示します。また、有数の林産地である和歌山県、徳島県、三重県などが出展し、地域材をピーアールするほか、2012年に取得した「ナイス京都北山の森」をイメージした空間展示を行います。このほか、注目が集まる非住宅分野について、構造躯体と内装に木材を用いた実物大「老人ホームモデル」の展示を行います。



実物大「老人ホームモデル」(イメージ)

④ ゼロ・エネルギー住宅「ゼロエネ10」を初展示

2020年における新築住宅の標準的な性能として政府が普及を目指す「ゼロ・エネルギー住宅」の実物大構造躯体を展示します。今回は、耐震性能をはじめとする最高等級品質住宅「パワーホーム」のうち、最大天井高2,430mmの小屋裏(ロフト)を確保した「メザニン」タイプの屋根に、10kW以上の太陽光パネルを搭載した住宅「ゼロエネ10」が初登場します。また、内部は高齢者や障害者の方が暮らしやすい、高齢者等配慮対策等級最高レベルの「ユニヴェルホーム」仕様となっています。



太陽光パネル搭載の「ゼロエネ10」(イメージ)

⑤ 地震対策をはじめ、注目のセミナーを無料で開催

◆注目セミナー◆ (※全セミナーのプログラムはホームページに掲載)

日時	内容	講師
8月30日(土) 11:00~11:30	住宅専門の弁護士に聞く 事例解説! 知っておきたい住宅トラブル	匠総合法律事務所 代表社員弁護士 秋野 卓生 氏
8月31日(日) 12:00~12:40	その時どうする! 巨大地震・津波への対応	名城大学 自然災害リスク軽減研究センター 特任教授 川崎 浩司 氏
8月30日(土) 10:20~11:20	混構造による中大規模木造の構造設計 (※事前予約)	京都大学 生存圏研究所 生活圏構造機能分野 教授 五十田 博 氏
8月30日(土) 15:20~16:20	木質構造の新しい展開 (※事前予約)	東京都市大学 工学部建築学科 教授 大橋 好光 氏

■開催概要

日 時 : 2014年8月30日(土)・31日(日)
10:00~17:00 (最終日は16:00まで)
場 所 : インテックス大阪6号館A
入 場 料 : 無料
ホームページ : <http://www.nicefair.com/>

住まいの耐震博覧会とは

2002年からスタートし、東京、名古屋、仙台、大阪、福岡など全国主要都市で開催しています。大阪での開催は今回で9回目となり、累計来場者数は8万人超にのびります。全国での累計来場者数は146万人で、住宅の地震対策に関する総合展示会として国内最大級の規模となっています。

◆本プレスリリースに関するお問い合わせ

ナイス株式会社 広報室 渡利・宮川 TEL : (045)501-5048 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-33-1 ナイスビル8階